

未知のルートから天狗に立つ

山行日 2022年6月4日(土)～5日(日)

参加者 L:N宮、SL:H谷、K藤、N崎(記)

コースタイム

4日 松戸 6:05=桜平駐車場(上) 10:30/11:00-夏沢鉱泉 11:25/11:35-オーレン小屋 12:40/13:20-夏沢峠 13:50-硫黄岳 15:10/15:25-夏沢峠 16:20-オーレン小屋 16:40

5日 オーレン小屋 6:35-根石岳 8:10/8:15-天狗岳 9:10/9:30-根石岳 10:10-オーレン小屋 11:30/12:05-夏沢鉱泉 12:55-桜平 13:15

第一の収穫はつゆ入り前の日に登山できたこと。ピーカンでした。この時期の樹々の若葉は宝物のよう。雨に降られなかったのは加藤さんのお蔭。金北山とどっかの2山続けて晴れ女だったとか。

夏沢峠の先で突然08年冬が蘇った。踏跡が消え雪壁はどこもフワフワだった。それぞれお好みのルートでもがいたが輪環なしのラッセルは辛い。敦子さんはうまく抜け出しトップでテラスに到達。ここを「敦子逆上の壁」と密かに命名した。

22年6月に戻そう。いつの間にかハイマツ帯になっていた。ここにライチョウを放てないかな。やがて高原状になり広谷さんが10年冬に10人で岩雪ミックスのアイゼン歩行の訓練を思い出したようだ。軽やかな話は足を持ちあげ押し上げてくれる。



硫黄岳からの緑色の眺望はみんな初めて。私たち白しか見てないんですって。石ころの地平線の先に赤岳が立っていた。2日前に地蔵の頭付近から愛

知県の女性が100m滑落したのをご存知ですか。その2ヶ月前には地蔵尾根をワクワクしながら下りたのは加藤さん。

オーレン小屋のお風呂は時間切れだった。自分の歩きが遅かったから。スマナイ。

翌日天狗岳を目指す。シラビソの森の中に雪が残りいい雰囲気だ。こっちは2回目。1回目は08年冬。根石岳から先は風の一吹きで踏跡が消え、輪環では滑るので外してルートを探したがあきらめた。反対側から登った時はいつも天が悲鳴を上げて唸っていて、凍った手袋で頬を揉みながら鼻水を垂らしながら直下を覗くのがやっとだった。ここから先は長年未知の世界だった。



南側から天狗の鼻に立つ事が今回の山行の目的であり、これが第二の収穫だ。みなさんのお蔭です。核心部は真新しい栈橋に替っていた。

オーレン小屋の名前の由来はミツバオウレンという白い花からだそう。小屋は桜鍋が売り。テシ場もある。開花時期によるのか花は少ない。よって二宮さんの出番がない。花はないが私たち2人が花なのよと当人がうそぶいていたがソウダヨネ。2山登頂できるのでお勧めだがアプローチが大変。桜平からの砂利道は凹凸が激しく車高の低いベシツは苦手なんだ。辛うじて駐シ場(上)に路駐できた。帰りに何回か底を擦ってしまった。

高速からは赤岳や硫黄岳が既に雲を被っていた。後ろの席では何の話題かキヤキヤはしゃいでいてうるさかったでしょう。お年頃ですから。

